

R. I. D. 2640 世界社会奉仕委員会のWCS視察報告

国際ロータリー第2640地区 世界社会奉仕委員会
委員長 中野 一郎

地区WCS委員会では、今年度を実施する当地区のプロジェクトで、8クラブ(堺フェニックスRC、新宮RC、りんくう泉佐野RC、有田2000RC、御坊南RC、御坊東RC、田辺東RC、海南東RC)が共同で実施する国際ロータリー3860地区のフィリピン共和国のセブ島のWCS支援プロジェクトの検証のため、4月2日から6日までの日程で視察に赴きました。また、同地区には、昨年の平原DG年度で支援した「100万本のマングローブ植林プロジェクト」の経緯もあり、その検証も兼ねる海外視察となりました。視察には、平原PDG、小嶋PDG、地区WCS委員会のメンバーと各クラブでWCS支援を行う、堺フェニックスRC、新宮RC、りんくう泉佐野RC、有田2000RC、御坊東RC、海南東RCのメンバーが参加するほか、海南東RCの姉妹クラブである台湾・彰化東南RCから4人のメンバーが合流し、総勢20名が参加しました。視察は、終始ハードスケジュールでしたが、多くのWCSプロジェクトを検証することができました。そして、フィリピンが抱えている数えきれない問題や現状を改めて再確認するとともにロータリーが実施するWCSの必要性と支援のあり方について、自分たちが直接、見聞きし、肌で感じることで再認識しました。そして、今回も沢山のことを学びました。

4月2日

[行程及びレポート] 到着日

朝、関西空港を出発し、マニラ空港を経由し、夕方、フィリピン・セブ島のマクタン空港に到着。早速、3860地区の歓迎例会に出席しました。歓迎例会には、今回のプロジェクトに関係する同地区の全てのロータリークラブが参加し、昨年のWCS活動の報告を受けました。特に3860地区のユミPDGと当地区の平原PDGが固い握手で再会を喜び、両地区の友好の契りを交わしたほか、それぞれのWCSパートナークラブへ支援の証と支援金を手渡し、プロジェクトの成功と資金の有効活用を要請いたしました。例会は終始、ロータリアン同士の友情によって盛り上がり、笑顔の記念写真となりました。終了は、23時30分。

4月3日 視察1日目

[行程及びレポート]

AM8:00 出発。参加メンバーが3860地区のメンバーの5台の車に分乗し、最初にBrgy Basakのデイ・ケアセンター(スラム街の託児所)へ向いました。貧困に喘ぐ多くの住民の生活を支援するため、母親が就業する間、RCC(ロータリー共同体)のボランティアの人達が小さな子供たちを世話します。周辺的环境は悪く、施設は小さな古い木造の小屋で3~6歳位の子供たちがひしめいていました。保母さんは無給で勉強を教えたり、食事の世話をしています。このプロジェクトは、ロータリーの支援だけで成り立っているとのことでした。

その後、Gon-ob地区の同じようなデイ・ケアセンターを2箇所、Cordova地区の小学校を視察。状況は何れも悲惨でした。デ



イ・ケアセンターでは、建物や設備は簡易で机や椅子は手作りでした。さらに、小学校では給水タンクやトイレ設備の改修、図書室には本が足りないなどの多くの問題点を聞きました。また、私たちは、手分けして多くの文房具やお菓子などを持っていきましたが、一人一人に手渡せるだけの数がなく、やむなくまとめて先生に託したところです。午後からは、貧民地区の水プロジェクトで、井戸の改修や新たな井戸や給水設備の整備プロジェクトを視察。セブのマクタン島は地質が珊瑚の隆起や岩盤でできているため、井戸掘りは大変とのことでした。しかも手掘りです。水脈も乏しく湧き水を貯水しているようでした。また、水質も悪く、井戸の蓋が無いので危険です。しかも、バケツの紐を引っ張って水を汲んでいます。手動式のポンプがあるのはマシな方でした。



次に視察したところは、Polpogan 地区の小さな子供たちへの食事支援プロジェクトでした。マンダウエ・ノース RC が支援している貧民街の集落です。栄養の必要な育ち盛りの子供たちへの食事支援ですが、資金の関係で月に一度だけしか行えないとのことでした。私たちが訪れた時は、同 RC のローターアクトの皆さんが早くから、大きな鍋、三つにお粥の炊き出しをし、テントで待機していました。後で聞くと、丁度、その頃、スコールがあり、そんな中ずっと私たちの到着を待



ってくれていたそうです。そして、私たちは交代で行列の絶えない子供たちに一人ずつ、お粥をそれぞれの子供たちが持参した食器に入れてあげながら、配り続けたのですが、途中で涙がこぼれてきました。子供たちの身なりや幼い弟や妹の手を引きながら小さな食器を差し出す姿に接し、これまで見た全ての背景が浮かんできました。フィリピンの暑い気候と良くない衛生状態。水、教育(識字)、飢餓、貧困、

環境問題、深刻化する人口問題と医療、ストリートチルドレン問題 etc . . . です。この集落は、小さなバラック住宅が密集する中で、多くの住民が暮らしています。キッチンやトイレ、風呂も無く、狭い路地で焚き木での炊事やタライでの洗濯。野ざらしのゴミや流れない汚水。数え切れない問題点。どうすればいいの? でした。こうした中で、最低限の改善策として、以前、地元のロータリーが作った集合トイレも見せてもらいました。私たちは、これまで、何度かこのようなスラム街を視察しましたが、表面だけしか見えていなかったのか



もしれません。本当の生活実態と街の裏側は、もっと悲惨な状況だと思えます。こうした劣悪な生活環境からくる病気、犯罪や売春問題など数え切れません。ロータリーでは、とりあえず、できることからとして、こうした地域への中古救急車や消防車の配備が今回の W C S プロジェクトに盛り込まれています。

次に最後の視察したところは、小学校の軒先や道沿いの小さな空き地を借りて、野菜作りをするといった「ロータリー菜園」でした。セブでは、もともと農地が少なく住民はビタミン不足の食生活であるためとのことでした。ロータリーでは、これまで、野菜作りの指導や水耕栽培などの取り組みをしていますが、絶対量を満たせません。住民へのアピールの一環として、行っているようです。この後は、今日の視察に関係したロータリーの皆さんとの夕食交流会で、引き続き、交流を図りました。終了は、22 時。

4月4日 視察2日目

[行程及びレポート]



AM8:00 出発。世話役のマンダウエイーストRCの他、3860 地区のロータリアンの方々の案内で、マングローブの苗木プラントのある NAGA City へと視察に向かいました。マングローブは、沿岸地域の環境を守る重要な役割を果たしている訳ですが、エビの養殖用生簀、塩田、炭の生産、工業地への転用などの理由で伐採され、近年その面積は減るばかりで、セブ島に残るマングローブの森も少なくなっています。繁殖している沿岸住民はおもに漁業を生業としており、森



の減少とともに年々その収穫量も落ち込み生活の糧を失い貧困に喘いでいます。南へと車を走らすこと約40分で海岸沿いの村へと到着し、苗木を育成しているプラントを視察。ここでは、マングローブの苗木を約3ヶ月の間、一本毎に鉢植えにし、苗床で育成、葉が三枚になると海に植林するという作業を繰り返しているそうです。苗木の育成と管理には、地元の漁師さんや村民が中心となり行われておりすべてボランティアで運営されています。我々は20センチ程の苗木を鉢植えする作業を体験させていただき、その後すぐそばの海岸を視察することになりました。以前はマングローブが群生していたであろう海岸線は、その伐採によりかなり侵食されており、岸から先10メートル位までは青い海が茶濁していたのが印象的でした。さっそく育成されたマングローブの苗木を、その海岸の砂浜へ植林するという作業をした訳ですが、一度失った自然が元に戻るには、かなりの時間と労力が必要であることを痛感いたしました。この植林プロジェクトは、ある程度の継続性が必要であるとの認識で、3860 地区内においては各クラブが



共同体として取り組んでおります。2640 地区内の各クラブのさらなる支援を期待したいとの要請をもらいました。NAGA City での視察を終え、今度は北へと1時間30分程度の移動時間で Liloan という町に到着。海沿いのリゾート施設で熱烈的な地元ロータリアンの歓迎を受け、合同の昼食会となり、市長の Duku Frasco さんからも歓迎を受けました。この後、昨年、海南東RCが支援した障害児に対する中古車椅子の贈呈式が執り行われました。一人一人試乗して、身体にあう車椅子を選んでもらう訳ですが、障害の程度により乗れない車椅子があったり、また、用意された車椅子の



台数より子供の数の方が多くなり、困りました。ただ、参加された母親、子供たちは全員笑顔でした。今回寄贈できなかった子供たちには、次回、支援をできるように地区内クラブにお願いしたいと思います。その後、マングローブ関連の視察先をもう一カ所視察し、海岸で植樹活動を行いました。時間はもう夕方です。視察終了後は大急ぎで支度し、セブ市内の友好合同例会の会場へ。マンダウエイーストRC、マボロRCが中心となり、関係の地元クラブが歓迎してくれました。特にローターアクトのメンバーによる演奏、歌、ダンスなどもあり、おおいに盛り上がり、お互いの好意と友情を深める例会となりました。また、この席では、今回マングローブの植林プロジ

ectのメンバーによる演奏、歌、ダンスなどもあり、おおいに盛り上がり、お互いの好意と友情を深める例会となりました。また、この席では、今回マングローブの植林プロジ

エクト支援として、新宮RC、堺フェニックスRC及び2640地区からの支援金を小嶋PDGによって手渡しました。終了は、23時。

4月5日 視察3日目

[行程及びレポート]

AM10:00 出発。ロータリアンの案内で貧民街にある施設を訪問しました。この施設では働く母親のための幼児の一時預かり保育、病院に行けない人々の医療サポート、障害者に対する就労支援、子供たちへの給食支援などが行われており、運営費はロータリークラブと地元の教会より捻出されているとの事です。市からの援助はわずかな金額で、すべてのスタッフは教会の司祭さんを中心としボランティアによるものです。建物はかなり老朽化が進んでおり、床も傾いているとかで、このままでは危険な状態でした。特に就労支援のために10歳位の耳の聞こえない少年が縫製作業を一生懸命にする姿が印象的に残りました。



次にマボロRCとマンダウエイストRCが支援している貧しい人々の為の、フリー・メディカル・クリニックの視察へと移動。ここはかなり劣悪な環境の地域の中心にあり、車を降り

ると砂埃と異臭が漂うという場所でした。ちょうど子供たちの給食の時間で、食器にそれぞれ一杯づつの



オートミールのような食事(おかずはありません)が配られ、お祈りの後、おいしそうに食事していました。ちなみにこの給食は1人前が10ペソ(約20円)らしいです。このクリニックでは学校に行けない子供たちの為に識字教育などもされており、ただ単に食事を提供する場所ではなく勉強しないと給食が与えられないシステムになっているそうです。以前に海南東RCが寄贈された中古パソコンが2台設置されており厳重に管理され、非常に大事に使用されています。子供たちの笑顔に見送られ、次に向かったのはセブ市内にあるマンダ

ウエRCの例会場。

ここでマンダウエRCとの友好例会が開催されました。このクラブには昨年東京RCクラブから移籍された日本人ロータリアンが在籍されており、セブ島の最近の情勢について詳しく説明を受けました。マンダウエRCでは社会奉仕事業として今年度、地元小学校の上水道のインフラ支援を計画しており、総額60万ペソのうち30万ペソが用意されているが残りについて(約60万円)を日本のロータリークラブでWCS事業として支援いただけるクラブがないものだろうかという相談を受けました。日本語の通じるロータリアンも在籍しておりますので、コミュニケーションも心配ないと思いますので、メールでリクエストがあれば、支援クラブを探しましょうと例会場を後にしました。この日も地元RCのお世話で友好夕食会が設けられ、更なる友情を深めました。

4月6日 帰国日

連日、炎天下の中でハードなスケジュールに参加者全員が疲れ気味でしたが、体調不良や病気や怪我もなく、無事に視察を終えました。終日まで私達の視察をサポートいただいた3860地区のロータリアンの皆様の熱い友情に感謝すると共に、国際奉仕のそしてWCS事業の素晴らしさを改めて認識する機会に恵まれた海外視察であったことを報告いたします。

追伸 今年度においての委員会活動のひとつに地区内クラブの各会員に国際理解と平和親善をより推進いたしたく 2640 地区WCS 海外視察を企画する予定で準備を進めて参りました。当初、タイ王国またはインドということで視察国を考えておりましたが、皆様ご存知の通り相手国の政情不安により委員会の判断により今年度においては取り止めと決定いたしました。今回の視察は、海南東RCが中心となって、同地区の8クラブが合同で計画していた 3860 地区のWCS 支援に委員会が加わるといった形で実施しました。例年の地区全体の海外視察への参加を楽しみにされている会員の皆様には連絡が遅れたこととお詫びいたします。次年度においては地区をあげての海外視察を執り行いと考えております。5月10日の地区協議会においてクラブ委員長様にご報告いたしますのでご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

今回のWCS実施クラブ

| 支援先クラブ | 支援クラブ |
|--------------|--------------------|
| 第 3860 地区 | 第 2640 地区 |
| マボロRC | 堺フェニックスRC |
| マクタンRC | 新宮RC |
| マンダウエ・ノースRC | 御坊南RC |
| セントラル・マクタンRC | 御坊東RC |
| カンダヤ・タクロバンRC | 田辺東RC |
| マンダウエ・イーストRC | りんくう泉佐野RC |
| マンダウエ・イーストRC | 有田 2000RC |
| マンダウエ・イーストRC | 海南東RC |
| マンダウエ・イーストRC | 台湾・彰化東南RC (D-3460) |

